



インド洋大津波の被災者を治療するAMDAの医師ら  
|| インド・タミルナド州で、AMDA提供

## AMDAに転職 インドで活動

インド洋大津波で被災したインド東部のタミルナド州で、国際医療援助団体「AMDA」（本部・岡山市）の調整員、松永一さん(36)が緊急救援活動に当たっている。兵庫県西宮市で阪神大震災を経験し、脱サラして



国際援助の道に転じた。「かつての被災者として、津波被災者に役立

を確かめようと、飲料水のペットボトルを抱え市内を歩き回った。

震災後は被災家屋の再建を手掛けた。元々、衣食住という人間生活の基本にかかわるとうと選んだ仕事。「世界には家の無い人がたくさんいる。同じ仕事なら、より深刻な途上国で働こう」。退社後、オランダの大学院で国際援助などを学び、AMDA職員になった。

インドでは医師らの診療に同行し、

### 西宮で被災「経験伝えたい」 松永さん

ちたい。震災から10年となる17日も、インドで被災者と向き合った。

昨年12月29日にインドに入った。同州カダロアの漁村に行く。廃虚となった町並みが10年前の記憶と重なった。

被害情報の収集などを行う。ある負傷した女性は家族を失った悲しみに打ちのめされ、「診療を受ける気になれない」と避難所のテントに閉じこもっていた。

松永さんは大学を卒業後、不動産会社の営業職に就き、住宅新築などを担当。震災当時は西宮市内のマンションで両親、妹と暮らしていた。幸い松永さんらにはがはなかったが、マンションは一部損壊。受け持ちの住宅の無事

松永さんは「今後は心のケアが必要になる。震災後の10年間の蓄積を生かし、日本ならではの貢献をしたい」と話す。自らの震災体験をインド人被災者に話すこともある。「小さなことでも神戸の経験を伝えたい」と思う。

【四谷寛】

# 世界の「災」と闘い続ける